

令和7年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立晃宝小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和7年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和7年4月17日(木)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問調査）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問調査）

4 本校の実施状況

第4学年	国語	80人	算数	80人	理科	80人
第5学年	国語	88人	算数	88人	理科	88人

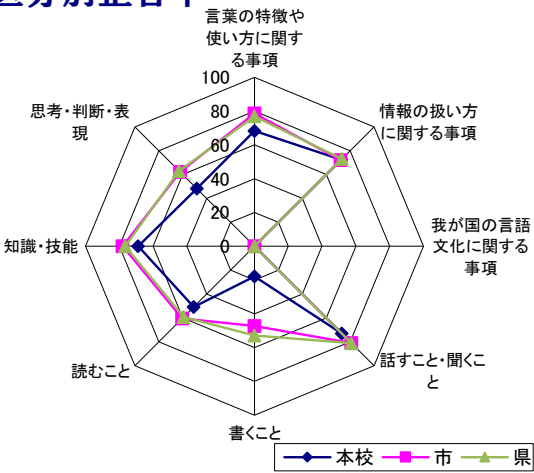
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立晃宝小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	68.3	78.6	76.9
	情報の扱い方にに関する事項	72.5	72.2	73.1
	我が国の言語文化に関する事項	0.0	0.0	0.0
	話すこと・聞くこと	73.1	81.0	81.1
	書くこと	17.8	47.2	52.8
	読むこと	50.9	60.5	59.3
観点	知識・技能	68.8	78.0	76.5
	思考・判断・表現	48.2	62.3	63.1



★指導の工夫と改善

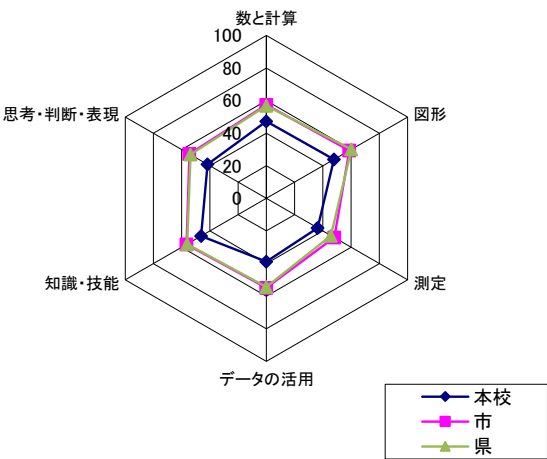
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	平均正答率は、市の平均より低い。 ●「第3学年までに配当されている漢字を正しく書く」問題では、設問3問の平均正答率が55.9%で、市を17.4ポイント下回った。 ●「文の中における主語と述語との関係を捉えることができるかどうかを見る」問題では、平均正答率が45%で、市を18.6ポイント下回った。	・新出漢字の読み方や字形に注意し、繰り返し練習に取り組むよう、国語の授業や家庭学習で促していく。 ・Aドリルを活用し、個々の習熟度に合わせた効果的な学習を進める。 ・文章を書く際には、今までに学習した漢字を意識して使うことを習慣付けられるよう、全ての教科の授業において指導していく。
情報の扱い方にに関する事項	平均正答率は、市の平均とほぼ同等であった。 ○「国語辞典の使い方を理解し、使うことができるかどうか」をみる設問の正答率が72.5%で、市を0.3ポイント上回った。	・分からない語句は国語辞典を引いて調べる等、国語辞典に触れる機会を増やすように指導していく。
話すこと・聞くこと	平均正答率は、市の平均より低い。 ●参加者の発言の内容をもとに、司会者の発言として適するものを選ぶ」設問の平均正答率が60%で、市を10.9ポイント下回った。 ●「ドッジボールがよい」という意見について、自分の考えを理由を挙げながらまとめる記述式設問の正答率が68.8%で、県を12ポイント下回った。	・自分の考えを理由を挙げながらまとめる練習を繰り返し行う。各教科においてペアやグループ活動、発表の機会を増やすことで、思考を整理し、他者に伝える力を養う。
書くこと	平均正答率は、市の平均より低い。 ●「段落の役割について理解し、2段落構成で文章を書く」設問の正答率が11.3%で、市を24.3ポイント下回った。 ●「指定された長さで文章を書く」設問の正答率が20.0%で、市を32.0ポイント下回った。	・それぞれの段落に書くべき内容や段落同士の関係について考える活動を行い、段落の意義や目的を理解できるようにする。 ・週末日記等、書くことを身近に感じられるような活動を日常的に設定する。
読むこと	平均正答率は、市の平均より低い。 ○「叙述を基に指示語の内容と捉える」設問の正答率が52.5%で、市を2.0ポイント上回った。 ●「情報と情報との関係について理解し、中心となる語や文を見付けて要約する」設問の正答率が8.8%で、市の平均を14.8ポイント下回った。	・複数の文章を関連付けたり、文章の中で繰り返される語句に着目したりする活動を取り入れ、要約に必要な力を高めていけるようにする。 ・接続語に着目して文章を読み、文章の中心となる事柄が書かれている文を見つけられるように指導する。 ・朝の読書の時間や図書室の時間を活用し、様々な文章に触れる機会を作り、読書の習慣を付ける。

宇都宮市立晃宝小学校 第4 学年【算数】 分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	47.3	57.4	56.9
	図形	47.8	58.7	60.1
	測定	36.3	48.1	45.7
	データの活用	38.8	54.9	54.3
観点	知識・技能	46.3	56.6	56.2
	思考・判断・表現	41.8	54.5	53.8



★指導の工夫と改善

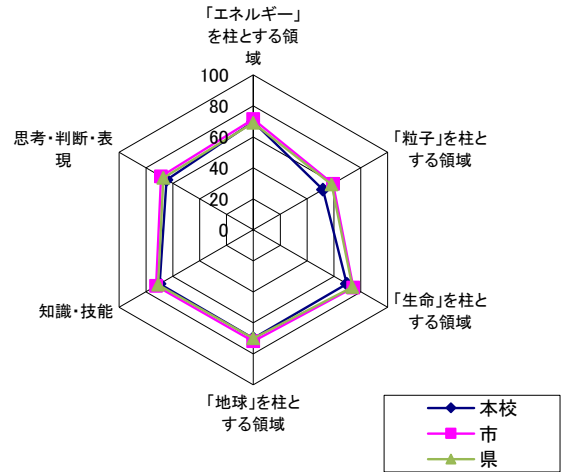
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、市の平均より低い。 ●「数直線で、目盛りの表す数の大きさを分数で答える」問題の平均正答率は25%で、市を21.8ポイント下回った。また、「同分母の分数のひき算について計算の仕方を説明する」問題の平均正答率は27.5%で、市を16.3ポイント下回った。 ●「数量の関係について口を使って表された正しい図を選ぶ」問題の平均正答率は68.8%で、市を12.2ポイント下回った。	・紙テープや色紙を使って「折って分ける」活動などの具体的な操作や分数の計算の仕方を説明するなどの言語活動を取り入れることで理解を深められるようにする。
図形	平均正答率は、市の平均より低い。 ●「球を平面で切ったときの正しい切り口の形を選ぶ」問題の平均正答率は50%で、市を19.7ポイント下回った。 ○「正三角形を作図する」問題の平均正答率は、75%で、市の平均と同等であった。 ●「二等辺三角形になる点を選ぶ」問題の平均正答率が20%で市を13.1ポイント下回り、課題があると思われる。	・具体物を操作する活動を取り入れたり、視覚支援教材を使用したりして、図形の見方や感覚を豊かにしていくことで、図形の性質や構成要素について理解が図れるように指導の工夫をする。 ・Aドрилを活用し、習熟を図るようにする。
測定	平均正答率は、市の平均より低い。 ●「単位をそろえて2つの道のりの和を比べ、どちらの方が短いか説明する」問題の平均正答率は35%で、市を18.3ポイント下回った。 ●「重さを、基準量のいくつ分かて考え、説明する」問題では、平均正答率が32.5%で市を14.2ポイント下回った。	・量の単位や測定の学習については、身近なものに置き換えたり、視覚支援教材を使用したりして工夫を行い、基礎的・基本的な学習内容を理解させていく。 ・本時のめあてを十分に確認し、自力解決を行った上で、互いの考えを聞き合ったり、認め合ったりする場面をもちながら、思考の根拠を適切な言葉で記述できるよう指導していく。
データの活用	平均正答率は、市の平均より低い。 ●「二次元の表から読み取ることのできる、正しい傾向を選ぶ」問題の平均正答率は45%で、市を15.1ポイント下回った。 ●「目的に合わせて選んだ棒グラフが適切である理由を選ぶ」問題では、平均正答率が22.5%で市を20.9ポイント下回った。	・同じデータを異なる目盛りの付け方で表したいくつかのグラフを比較する活動を取り入れながら、グラフを正しく読み取る活動を取り入れることで、目盛りに気を付けてグラフを読み取るように指導していく。 ・すべての設問で無回答率が40%に近いという結果から、社会など他教科との関連も図りながらグラフを読み取る力を身に付けるように指導していく。

宇都宮市立晃宝小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	69.7	71.4	69.1
	「粒子」を柱とする領域	51.9	59.3	58.3
	「生命」を柱とする領域	69.6	74.5	73.8
	「地球」を柱とする領域	70.0	72.0	70.1
観点	知識・技能	69.8	72.5	70.9
	思考・判断・表現	64.6	68.8	67.1



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	平均正答率は、市の平均より低い。 ○近付ける磁石の極と、引き合うか退け合うかの組み合わせとして正しいものを選ぶ問題では、正答率が85%と高く、市の平均を1.8ポイント上回った。 ●輪ゴムの数と車が動いた距離の関係を適切に表した棒グラフを選ぶ問題では、正答率が51.3%と低く、市の平均を5.3ポイント下回った。	・実際に実験を行う際に、輪ゴムの本数が増えるほど車の距離も増えるという関係性を感覚的に身に付けさせるなど、具体的な実験と結びつけることで理解を深めるようにする。また、結果が示す棒グラフが何を表しているのか、それぞれの軸が何を意味しているのかを理解できるようにする。
「粒子」を柱とする領域	平均正答率は、市の平均より低い。 ●「粘土の形の違いによる重さの変化について、予想を基に実験結果を構想できるか」問う問題では正答率が12.5%と低く、市や県の平均正答率を約15ポイント下回った。 ●「複数の物の重さを同じにした時の、体積の違いについて考えることができるか」を問う問題では、正答率が26.3%と低く、市や県の平均を約10ポイント下回った。	・粘土の形を変えても、その中に含まれる物質の量は変わらないため、重さは変わらないことを強調して指導するようにする。また、予想が正しいかどうかを確かめるために実験を行うという一連の流れを押さえた授業を繰り返していく。 ・「複数の物の重さを同じにした時の、体積の違い」を考える問題では、実際に様々な素材(粘土、木、発泡スチロールなど)を用意し、天秤を使って重さが同じになるように調
「生命」を柱とする領域	平均正答率は、市の平均より低い。 ○モンシロチョウとの比較を基に、クモが昆虫といえるかを述べた文章として正しいものを選ぶ問題では、正答率が72.5%で、市の平均を8.5ポイント上回った。 ●ホウセンカが育つ順番に図を並び替える問題では、正答率が45%と低く、市の平均を16.7ポイント下回った。	・ホウセンカの成長過程は、実際に観察することで最も効果的に理解できることから、種の観察から始め、定期的に観察記録を行い、成長の変化を言葉で表現できるようにする。
「地球」を柱とする領域	平均正答率は、市の平均より低い。 ○「温度計の使い方が身に付いているかどうか」をみる問題では、正答率が91.3%と高く、市や県の平均よりも約8ポイント上回った。 ●「太陽と日陰の位置の関係と、校舎によって日光が遮られてできた影の位置を関連付けて考えることができるか」問う問題では、正答率が72.5%で、市や県の平均よりも約7ポイント下回った。	・天気の良い日に、棒や自分の体を使い、太陽の位置が変わると影の向きと長さも変わることを実際に体験させ、「太陽が東から昇ると、影は西側にできる」「太陽が南中すると、影は真北にできて一番短くなる」「太陽が西に沈むと、影は東側にできて一番長くなる」という基本的な関係を言葉で整理して理解を図るようにする。

宇都宮市立晃宝小学校 第4学年 児童質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で、テストでまちがえた問題について勉強をしている。」の質問に対する肯定的回答割合は60.7%と半数を上回っている。また、「勉強をしていて、おもしろい、楽しいと思うことがある。」という質問の肯定的回答割合が80.9%、「勉強をしていて、「不思議だな」「なぜだろう」と感じることもある。」という質問の肯定的回答割合が79.8%と学習することに対する意欲が高いことがわかる。家庭学習の意欲・質をさらに向上させるために、問題を解くことが出来たら積極的に褒める等の働きかけを行い、「なぜだろう」が「わかった」から「楽しい」というような達成感を感じさせることで、勉強に対して自ら取り組む態度を育み、「疑問や不思議に思うことは、分かるまで調べたい。」と思えるよう指導していくようにする。

○「授業では、自分の考えを発表する機会があたえられている。」という質問に対する肯定的回答割合が79.8%と高いことに加え、「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している。」という質問に肯定的回答割合が70.8%と7割を上回っている。また、「人と話すことは楽しい。」という質問に肯定的回答割合は93.3%と非常に多いとわかる。このことから、対話的な学びの場の導入により、コミュニケーション能力等の児童の「話す力」が向上していると推測される。今後も児童の発言に対して肯定的な働きかけを行い、友達の前で自分の考えや意見を発表することに対する苦手意識を減らしていくような指導を継続していく。

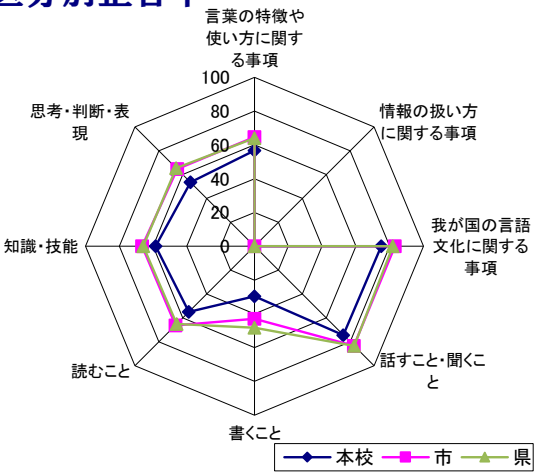
●「学習に対して、自分から取り組んでいる。」という質問に対し、肯定的回答割合が53.9%と、県の平均と比べると20.8ポイント低くなっている。また、「ふだん(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム(コンピュータゲーム、けい帯式のゲーム、けい帯電話やスマートフォンをつかったゲームもふくむ)をしますか。」という質問に対し、4時間以上と回答した児童が22.5%と、県の平均を7.3ポイント上回っている。このことから、学習意欲の向上のために、ICT等を活用し、学習内容をゲームやクイズ形式にしたものを取り入れることで、児童の好きなことを入り口に競争心や達成感を刺激し、楽しみながら学ぶことを推進していきたい。

●「1か月に、何さつくらい本を読みますか(教科書や参考書、まんがやざっしはのぞく)。」という質問に対する肯定的回答割合が24.7%と、県の平均よりも21ポイント低くなっている。本を読むことは、本校児童の苦手とする言語能力を育む機会となり、積極的に読書の推奨をすることが求められる。その為に、国語の図書の時間を積極的に活用し、読書をする習慣づけを行ったり、図書室と連携し、度々行われる図書の行事等への参加を促し、読書に慣れ親しめるような働きかけを行っていく。

宇都宮市立晃宝小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方に関する事項	56.7	64.7	64.1
	情報の扱い方に関する事項	0.0	0.0	0.0
	我が国の言語文化に関する事項	75.0	83.1	81.9
	話すこと・聞くこと	74.4	83.3	83.4
	書くこと	29.6	42.8	48.2
	読むこと	55.0	66.1	65.1
観点	知識・技能	58.5	66.5	65.9
	思考・判断・表現	53.5	64.6	65.5



★指導の工夫と改善

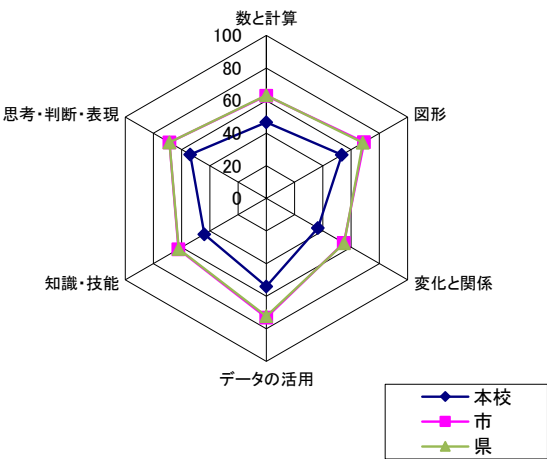
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	平均正答率は、市の平均より低い。 ●「第4学年までに配当されている漢字を正しく書くことができるかどうかをみる」ことをねらいとした問題の平均正答率はすべての問題で市よりも低く、課題が見られる。 ●「熟語の漢字の組み合わせを理解して、熟語の意味を捉えることができるかどうかをみる」ことをねらいとした問題の平均正答率は市と比べて21.6ポイント低かった。	・既習の漢字が定着していないことから、AIドリルや漢字スキルを活用し、これまでに習った漢字を思い出す機会や日々の宿題として文章を書く活動を取り入れて、既習の漢字を使う機会を確保するようにする。
我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は、市の平均より低い。 ●「ことわざの意味を理解して、自分の表現に用いることができるかどうかをみる」ことをねらいとした問題の平均正答率は市と比べて8.1ポイント低かった。	・司書教諭と連携し、授業の中で本や辞典を用いて「ことわざ」や「慣用語」に触れる機会を取り入れることで、さらに定着を図る。
話すこと・聞くこと	平均正答率は、市の平均より低い。 ○選択式の問題の無回答率は低く、回答しようとする意欲が見られた。 ●「司会の役割を果たしながら話し合い、参加者の発言を基に、考えをまとめることができるかどうか」や「話し合いの目的を確認し意見の共通点や相違点に着目しながら、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる」ことをねらいとした問題では、無回答率が高く、平均正答率も市と比べ低い値だった。	・取り組みの意欲は感じられるため、話し合った結果の要約や自身の考えをまとめる活動などを取り入れることで改善を図る。
書くこと	平均正答率は、市の平均より低い。 ●記述式の問題ではすべて、無回答率が38.6%だった。回答を諦めてしまう様子が伺えた。平均正答率はすべての問題で市を下回った。	・文章を書くことに苦手意識をもっている児童が多いため、日ごろから文章を書くことに取り組む機会として、授業の振り返りを短文で書く活動を取り入れる。
読むこと	平均正答率は、市の平均より低い。 ○「文章を読んで理解したことについて、感想や考えをもつことができるかどうかをみる」ことをねらいとした問題の平均正答率は市と比べて2.4ポイント下回ったが、県と比べると0.5ポイント上回った。 ●読むことにおいては上の設問以外は市と県の平均正答率を下回った。	・登場人物の心情の変化や物語の山場などを読み取る力や叙述を基に文章の内容を捉える力を育むために、単元の関連図書等でブックトークを取り入れるようにする。

宇都宮市立晃宝小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	46.7	63.0	63.3
	図形	53.4	69.2	68.3
	変化と関係	36.4	54.8	55.0
	データの活用	54.0	73.1	72.3
観点	知識・技能	43.9	62.3	62.1
	思考・判断・表現	54.0	68.7	68.7



★指導の工夫と改善

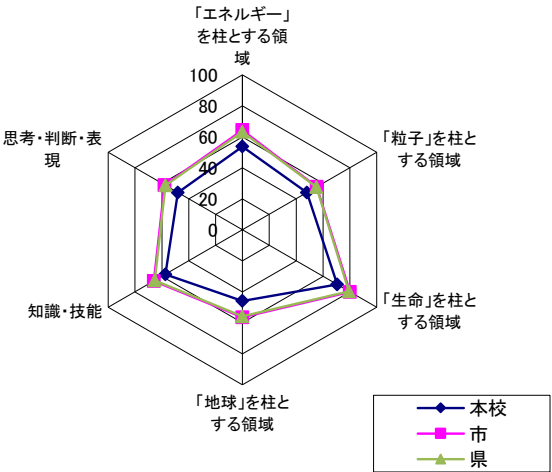
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、市の平均より低い。 ●「小数のしくみを理解し、もとにする小数のいくつ分かで大きさを比べることができるかどうかをみる」問題の正答率は30.7%で、市を19.6ポイント下回った。 ●「小数を含むひき算とわり算の計算ができるかどうかをみる問題」におけるそれぞれの正答率は、54.6%と36.4%で、ともに市を20ポイント以上下回った。	・5年生の学習では、小数を含む計算が多く出題されるため、授業を進めるにあたり、小数の計算がある单元ごとに、小数の意味を確認し、整数と整数、整数と小数など既習事項を中心とした計算の習熟を図るためのプリント学習やAIDリルなどを活用する。
図形	平均正答率は、市の平均より低い。 ●「三角定規の角度を理解し、角の大きさを求める問題」の正答率は31.8%であり、市を22.1ポイント下回った。 ●「立体の構成要素から、立体を見分ける問題」の正答率は75.0%であり、市を11.1%下回った。	・立体の構成要素の理解においては、具体物を用いて、視覚だけでなく直接触れることにより、面の形の特徴や辺の長さについて、体験を通した学習をする。 ・三角定規や分度器、コンパスを使う機会を増やし、その道具の特徴を押さえ、図形や角度が作図できるよう継続的に指導する。
変化と関係	平均正答率は、市の平均より低い。 ●「伴って変わる2つの数量の関係を式に表す問題」の正答率は25.0%で、市を24ポイント下回った。	・授業において、文章や表から数量の意味を読み取り、どのような変わり方をしているのか、または、数量の変わり方に特徴や規則性があるのかなどについて、自分の言葉で発表したり、考えを書いて説明したりする機会を多く設定する。
データの活用	平均正答率は、市の平均より低い。 ●「折れ線グラフと棒グラフの複合グラフから、傾向を読み取る問題」の正答率は50.0%で、市を18.7ポイント下回った。 ●「二次元の表の意味を理解しているかどうかをみる問題」の正答率は52.3%で、市を22ポイント下回った。	・グラフから特徴を読み取れるよう、縦軸や横軸の数値の意味や変化の様子の捉え方について再度指導を行い、定着を図るようにする。 ・2つの観点からまとめたも二次元の表の読み取りについては、それぞれの場所がどのような意味や数を表すのかを明確にし、数値を記入する活動を通して、表の仕組みが理解できるようにする。

宇都宮市立晃宝小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	53.7	64.3	63.2
	「粒子」を柱とする領域	48.0	55.4	55.1
	「生命」を柱とする領域	70.6	80.1	79.3
	「地球」を柱とする領域	45.9	56.4	55.8
観点	知識・技能	57.4	66.0	65.3
	思考・判断・表現	48.1	57.9	57.4



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	平均正答率は、市の平均より低い。 ●「直列つなぎの名称」を答える設問では、正答率が48.9%で、市の平均正答率を18.4ポイント下回った。そのうち「並列つなぎ」と解答している児童が約14ポイント見られ、用語を正しく理解しないまま覚えている様子が見られた。 ●「電流が流れない原因の箇所を選ぶ」の設問の正答率は54.6%であり、市の平均正答率を9.6ポイント下回った。スイッチが入ってないと答えている児童が約21ポイントであり、並列つなぎを正しく理解していない様子が見られた。	・電流の実験など具体的な操作を通し、実感を伴って理解したり、それぞれの名称を覚えたりすることができるように指導していき、定着を図っていく。 ・AIDリルを活用し繰り返し問題を解いたり、ICTを活用したりして視覚的効果を生かした学習を進めるようにする。
「粒子」を柱とする領域	平均正答率は、市の平均より低い。 ○「空気でっぽうの球が飛び仕組みについて」の設問の正答率は38.6%で、市の平均正答率を4.1ポイント上回った。 ●「ものの温度と体積」の設問の正答率は51.1%であり、市の平均正答率を18.2ポイント下回っている。特に、空気と水を温めた時の体積の変化の違いについての設問では無回答が20.5ポイントであり、市の無回答率より12ポイント下回った。	・朝の学習の時間等にプリントやAIDリルを活用しながら、基礎学力の定着を図る。 ・授業の中でめあてや予想に立ち返り、何を調べる実験なのかを正しく捉えて考察やまとめができるようにする。 ・理科の授業において、仮説、実験、結果、考察の流れを意識した授業づくりに努め、日々の生活と関連付けながら科学的な思考力を育てていく。
「生命」を柱とする領域	平均正答率は、市の平均より低い。 ●「ヒトの手や腕の骨と鳥の翼の骨の数について」の設問の正答率は62.5%で、市の平均正答率を18.8ポイント下回った。 ●「骨と骨のつなぎ目の名称」の設問の正答率は76.1%で、市の平均正答率を11.2ポイント下回った。	・目に見えないものを理解させるために、模型を活用したり、ICTを活用しての調べ学習や映像教材を活用したりして、観察・体験を通し、実感を伴って理解できるように指導することで定着を図っていく。 ・繰り返し類似した問題を解くことで、知識の定着を図る。
「地球」を柱とする領域	平均正答率は、市の平均より低い。 ○「温度により空気の体積の変化」を説明する設問では、県の平均正答率とほぼ同じであった。 ●「水たまりのできにくい地面の理由を説明する」の設問の正答率は28.4%で、市の平均正答率を13.1ポイント下回った。	・朝の学習の時間等にプリントやAIDリルを活用しながら、基礎学力の定着を図る。 ・観察や実験に取り組んで満足する様子が見られるので、実験結果からの考察をより丁寧に指導し、児童が自分の力で説明できるようにしていく。 ・文章問題や説明する問題では、最初から諦めて回答しない児童が多いので、何度も文章を読み、自分の思考の根拠を適切な言葉で表現し、記述できるように継続して指導していく。

宇都宮市立晃宝小学校 第5学年 児童質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「しょう来のゆめや目標をもっている。」と回答した児童の割合は95.5%、「家の人としょう来のことについて話すことがある。」と回答した児童の割合は76.4%と、県の平均と比べて高く、将来の夢をもっていたり家族と相談したりしている児童が多い。夢や目標の実現に向け、キャリア教育の充実に努め、自ら学習に取り組む意欲を育てていくようにする。

○「漢字の読み方や言葉の意味が分からないときは、辞書を使って調べている。」と回答した児童の割合は62.9%、「歴史上の人物やできごとをあつかっているテレビを見たり本を読んだりするのは好きだ。」と回答した児童の割合は62.9%、「自然やうちゅうなど、科学の内容をあつかっているテレビを見たり本を読んだりするのは好きだ。」と回答した児童の割合は70.8%であり、県の平均と比べて高く、興味がある事柄について、自ら情報を集めたり意味を調べたりすることができている。興味や関心の幅が広がるよう、授業や言葉掛けを工夫していく。

●「家で、学校の宿題をしている。」、「家で、学校の授業の予習をしている。」、「家で、学校の授業の復習をしている。」という質問に対する肯定的回答割合は、いずれも県の平均より低く、家庭学習の定着に課題がある。1人1台端末を活用するなど、児童の実態に合った宿題を精選していく。

●「学習に対して、自分から進んで取り組んでいる。」という質問に対する肯定的回答割合は、69.6%と県の平均と比べて4.3ポイント低く、「取り組んでいない。」と回答した児童の割合は14.6%と県の平均と比べて8.5%高かった。学習意欲の高まる課題の設定や、スモールステップの学習による自信付けに取り組んでいきたい。

宇都宮市立晃宝小学校（第4・5学年共通） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
○基礎・基本の確実な定着	○学習用具の準備や学習のきまり、話し方・聞き方等の学習態度や学習技能を育てるための指導を学校全体で共通理解し取り組んでいる。 ○適切な宿題、自主的な学習内容や方法の提示による家庭学習の習慣化	○「授業を集中して受けている」という質問の肯定的回答率は4年生で87%、5年生で84%を超えている。 ○「学校の宿題は、自分のためになっている」という質問の肯定的回答率は、4年生・5年生ともに94%を超えている。学習への意欲を持たせ、家庭学習の習慣化を図るきっかけとなっている様子が伺える。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
○基礎・基本が十分に定着していない ○記述式問題の正答率の低さ、無回答率の高さ	○基礎・基本の定着を目指した学習指導の工夫 ○「書くことキャンペーン」の実施	○漢字や計算の定着のための朝の学習タイムを計画的に実施していく。 ○書く活動を充実させるための工夫を職員研修で紹介し合い、継続して実践していく。